



東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏



お元気ですか。高原剛一郎です。今回は高崎講演会の動画の3回目になります。当日は2部制で行ったのですが、これは1部の後半のメッセージです。その内容は、米中冷戦が激化していくということです。

アメリカといえば、何と言っても車社会ですね。広いんですよ。車が無いと生活できない。アメリカの車を見ていくと、2つのことが目立ちます。1つはピックアップトラック（荷台が付いている自動車）が非常に多い。あれ日本で走ってるの、まず見たことないですよ。だけど、アメリカの男たちは、あれが大好きなんですね。

もう1つはテスラです。非常に高価な車ですが、当たり前前に走ってますよね。テスラだらけ。テスラが普通に走ってるのを見て、やっぱりアメリカだなあと思いました。電気自動車。

しかし世界的に見ると、テスラを上回る台数で提供しているメーカーがあります。トヨタでしょうか。いいえ。BMWでしょうか。いいえ。BYDです。中国のメーカーで、世界70か国400以上の都市で走っていると言われてます。プラグインを入れると、テスラの台数よりも多い。完全バッテリーの電気自動車でも、テスラに次いで世界で2番目です。今年2023年1月、遂に日本にも上陸し、大変な売り上げを上げています。

では、アメリカにBYDの電気自動車が上陸しているのか。まだです。おそらく、上陸させないだろうと言われてます。これから言うのは、私がアメリカでお会いしたある方からの情報で、政府がどう言っているのか明確な根拠を示すことができません。が、彼は国際情勢について、長らく政府関係者に助言しているような方なんですね。

なぜ、アメリカは中国製の電気自動車を許さないのか。彼によると、電気自動車は単に動力がエンジンから電気モーターに代わっただけではなく、スマートカーになっていることが問題だと言うんです。スマートカーは色んなIT技術を駆使して、理論的には無人運転もできるところまで行ってるんですね。

スマートカーを安全に動かすために、基本的に、宇宙に浮かんでいる衛星と車を繋いでいます。すなわち、中国製の電気自動車の場合、中国の衛星とその車が通信で繋がっている。ということは理論上、衛星を通して、運転している車を暴走させることができる。中国の衛星を使って、中国製の車が一齐に暴走することが起こる。

2 番目にやるべきことはスパイ防止です。

私は、日本の政界にも経済界にもマスコミ界にも、中国に忖度しているのか、あるいは中国の味方になっているのか、非常にクエスチョンマークが付くような人たちがいっぱいいることを知っています。何度か問い詰めたこともありますよ。でも、問い詰めたら変なことが起こるんです。だから、大人しくしてます。

台湾のトップに蔡英文（さい えいぶん/1956-）という女性の総統がいましたね。彼女は任期中に、「台湾の軍隊のOBが中国に行って、企業に就職することはできない」という法律を作ったんです。

台湾には、中国大陸から渡って来た人たち（外省人/がいしょうじん）と、元々台湾にずっと住んでいた人たち（内省人/ないしょうじん）がいます。蔣介石（しょう かいせき/1887-1975）が台湾に渡って来た時、100万の軍隊を引き連れて来ました。彼らは外省人で、元々台湾にいた人たち（内省人）と血縁関係がないので、その子孫は親父さんの仕事を受け継ぎます。それは軍関係なんですね。つまり、台湾軍は外省人がほとんどを占めている。

この外省人は軍を終えてOBになった時、みんな大陸中国に行くんですよ。そして、会社なのかコンサルタントなのか、どんな経済活動してるのか知らんけど、接待尽くしの接待漬けで、おそらくハニートラップも受けてるでしょう。そうして、かつて自分の部下だった人が、現役で台湾軍のトップの方にいるでしょ。

これはまずいと蔡英文さんは考えた。決めたんです。「軍歴のある人たちは、中国の会社に就職できない！」いや、職業選択の自由、あるんじゃないですか？でも、このことは譲れない！できない！代わりに、台湾国内で天下りオクケー！全部禁止だけやったら、もたへんから。天下りにしたらロクなことはない。分かってる。だけど、悪だけど極悪よりマシ。

日本の中にね…もう言いたいけど、やっぱりここでは言えない。例えば学術会議、どう思いますか。菅（すが）元総理がずいぶん格闘されましたが、日本学術会議は中国科学技術院と提携してるんです。中国科学技術院は民間組織ですが、中国工程院という人民解放軍直結の研究機関と結びついている。学術会議では「軍事の開発に関わることはやってはならん！」と言っているんですが、結局は中国人民解放軍に技術が流れてるんじゃないですか。

不思議なのは、例えば福島第一原発の処理水。IAEAが調べて「これは基準量よりも10倍も薄めていて、流しても大丈夫。何の問題もない！」ところが、中国の王毅（おう き）が「そんなに大丈夫と言うんやったら飲め！」どんな頭してんねん。もうそれはいいんです。言わしといたらええねん。ええねんけど、こういう時こそ学術会議が立ち上がってね、いかに科学的に無害かを発言すべきじゃないですか。税金でやってるんだから。

言わないじゃない。なんで？だれか入ってるんですか？ノックノックみたいな。これ以上はもう言いません。アップできなくなるからね。

それやってほしい。いざという時に大変な事になります。戦争で一番大事な恐ろしいことは、強い敵ではなく味方の中にいる敵なんです。中国が黙って何もしないわけがない。

3番目にやるべきことは、日本が**自衛力**を身に着けることです。

日本の周りには色んな国々がありますが、ロシアも中国も北朝鮮も、日本に到達するミサイルを持っているんです。中距離弾道ミサイル。

中国には核弾頭を取り付けることができ、日本を照準にしているミサイルが今2000発あります。北朝鮮もどんどん飛距離を伸ばして、大陸間弾道弾が開発されていると言います。

日本には射程200キロの短距離ミサイルしかない。なぜ中距離ミサイルがないのか。「憲法違反の恐れがある！」とか言うて、結局作らなかつた。

作らなかつたけど、安倍総理の時に、敵の基地を叩くことができるように、考えを切り替えることができたんです。岸田さんの時に、それを法制化したんですね。だけど、すぐに作れないので、トマホークというミサイルを400発買うことにしました。400発のトマホークミサイルって、数時間で終わる量ですよ。

台湾問題…中国が台湾に出て来た時、日本は基地を提供するのか。燃料を提供するのか。一緒に戦うのか。選択肢がいくつかありますが、巻き込まれますよ。

「日本が入るなら、在日米軍基地と自衛隊の基地と市街地に中距離ミサイルを撃ち込むぞ！」と言われた時、「はい。ごめんなさい」となるんですか。

「そちらが撃つなら、こちらも撃つぞ！」となって初めて、やめさせることができるんじゃないですか。

日本の安全で今一番、すぐに必要なのは、中距離弾道ミサイルを数千発揃えることです。「そんなこと、クリスチャンで言うていいんか！」言うてしもたやん、もう。どう考えても、それ以外の結論は出ませんねえ。

最近のタクシーは、運転席と後部座席にアクリル板みたいな仕切りがありますね。あれはコロナ対策じゃありません。コロナ蔓延以前のある時から、タクシー強盗の被害を減らすために、ドライバーと客の間に仕切りができたんです。

十数年前、タクシー強盗が頻発したんですよ。犯罪は成功例があると真似するヤツが出て来る。模倣犯。全国のタクシードライバーたちが戦々恐々になりました。

その時、熊本タクシー、通称熊タク（このホームページ面白いですよ）が広告を出して、「早まらないでください！弊社のドライバーは元自衛官。元力士。元格闘家。柔道剣道有段者。剛の者が揃っております！」これが効くんです。

「私どもはサービス業ですから、お客様からムチャクチャなことを言われても手出しできないんです。そんなことはやめてください！」って、強盗やろうと思ってるような者にはブレーキになりません。

熊タクが言っているのは「私たちは弱いからやめてください」ではなく、「私たちは強い。だからやめとき！早まるなよ！」
言葉遣いは丁寧ですが、何となく脅しているような感じ。だから収まる。

国際安全保障なら、もっとそうじゃないですか。

「だれよりも強くなる。だれからも攻められないために。」
昔の自衛隊募集のポスターです。攻めるための防衛力じゃないんですよ。
中国と台湾の戦争がもう目の前、いつ起こるかもしれないと言われている状況の中、
日本は自分で出来ることをしていく必要があります。
特に、ウクライナ戦争でロシアが弱っているからです。

ウクライナ戦争でロシアが弱ると、なぜ中国が出て来るんですか。
中国は伝統的に、北方の国境に強い国がいる時は海に出て来れないんです。
中国の北にはいつも騎馬民族がいました。モンゴル帝国がありました。
ところが 15 世紀、中国は鄭和（てい わ）を遣わして大海軍部隊を作り、東アフリカまで遠征してるんです。7 回。
なぜ大陸国家の中国帝国が海に出られたのか。15 世紀にモンゴルが衰弱したからです。しかし突然、その活動が止まりました。モンゴルが再び強くなったからです。

つまり、中国のすぐ北にある国が強くなると、中国は外に出ることができないけど、その国が弱くなると、中国はよその国に乗り出して来る。
ロシアと中国の国境は 4000 キロありますが、ロシアはウクライナに掛かり切り。
もう北方防衛は気にしなくてもいいんです。安心して台湾に集中できる。

だから今のうちに、この 3 つ（デカップリング、スパイ防止、自衛力）をすべきなんです。ウクライナ戦争は中国を刺激しています。
私たちは自分でできる準備をしておくべきだと考えます。
皆様はいかがでしょう。